2014 年 3 月 8 日ベルリンかざぐるまデモ

岐阜環境医学研究所の所長松井英介氏の演説

1980 und 81 habe ich in Berlin, im damaligen West Berlin gelebt. Ich habe im Krankenhaus Heckeshorn, der Lungenklinik am grossen Wannsee, gearbeitet. An der Strasse des 17 Juni, sind damals viele Panzer, der USA, der Englaender, und der Franzosen gefahren. Und viele, hauptsaechlich junge Leute, haben gegen die militärischen Demonstrationen protestiert. Sie machten einfach den Mund zu, sprachen kein Word, kehrten ihre Ruecken der Strasse zu, hielten einen Arm hoch, machten eine Faust und blieben so stehen.
Ich habe hier in Berlin" Atomkraft Nein Danke" gelernt.

① 緊急に必要なこと

「福島には火がついています」。これは京都に移り住んだお母さんの言葉です。
現場は止まっていません。ストロンチウムやトリチウムのほかに、新たに大量のセシウムが地下水から検出されました。

この事実は、溶けたウランがより深い層の地下水と触れ始めた可能性を示しています。

日本政府は、「除染」して空間線量が 20mSv/y 以下に下がれば戻って良いと言います。「帰還」政策です。しかし「除染」は「移染」、すなわち放射性物質を少し移動させるだけだということが、分かっています。「帰還」政策は、子どもたちのいのちを危険に晒すものです。

現に、この三年間に、74 人の甲状腺がんが、見つかっています。
また最近の Strahlentelex（放射線テレックス）には、胎児や新生児の異常が紹介されています。
汚染の強いところで、早産や死産が増えているのです。

② では、私たちはどうすればよいのでしょうか？

何より**予防**です。予防には、一次予防と二次予防があります。
二次予防は、早期発見。病気を早く見つけて、いのちを助けることです。
一次予防は、放射性物質を、これ以上取り込まないようにすることです。
この二つを同時に進める必要があります。

まず、**二次予防。**甲状腺がんを例に見てみましょう。疫学者の津田敏秀さんは、今回見つかった甲状腺がんは**アウトブレイク**だと言っています。**大発生**に備えて、早く手を打つ必要があるのです。そのためには、検診の精度を高める必要があります。二年に一回ではなく、半年に一回の検診を、**国が責任をもって**やるべきです。

③ 大切なのは一次予防です。

チェルノブイリ原発事故の後、現地で、五年以上も、優しい手術の方法を教えた菅野昭さん。今の、松本市長です。彼は、福島の小学生や中学生に
「松本留学」を勧めています。汚染の少ない松本市で、勉強できるようにするのです。
内部被曝からいのちを守るために、食べもの基準値を厳しく定めること、食べものと土の検査を丹念に行うことも、大切です。

④ 「健康ノート」の意義

私たちは、**「健康ノート」**を作りました。3.11 事故後の暮らし、身体と心の状態を、できるだけ正確に記録するためです。

当時の状況を想いだせるように、事故後の気象状況の資料もつけました。

家族や仲間とともに記録することによって、記録を正確にできます。また、お互いに励ましあうことによって、あきらめずに記録を続けることができます。

⑤ 外国の仲間とともにやること

安倍首相は、三菱重工とアレヴァの原発を売り込むために、トルコに出かけました。東芝とウェスティングハウスの原発を売り込むために、チェコに出かけました。

とんでもない話です!

外国への原発売り込みをやめさせましょう。

⑥ ドイツの経験から学ぶ

国連人権理事会の特別報告者アナンド・グローバーさんは、日本の現状を丹念に調べ、素晴らしい報告書をまとめました。

学校で**「低線量被ばく」**のリスクを教えなさいと、提案しています。

ドイツでは、早くから放射線の害を教えてきました。そして、反原発の運動を巻き起こし、3.11 の後すぐに、「脱原発」を決めました。

私は、ドイツの経験を、日本の子どもたちに教えたい！と思います。

⑦ ” Atomkraft Nein Danke！”

Vielen, vielen Dank fuer Ihre Aufmerksamkeit!

松井英介:医師、岐阜環境医学研究所所長　1980～81 年西ベルリン市立呼吸器専門・Heckeshorn 病院勤務。2001 年 3 月まで岐阜大学医学部附属病院勤務。放射線医学講座助教授。退任　後、岐阜環境医学研究所を開設、現在に至る。 日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、日本肺癌学会および日本呼吸器内視鏡学会特別会員。 廃棄物処分場問題全国ネット共同代表、羽島市アスベスト調査委員会委員長、 NPO 法人 731 部隊・細菌戦資料センター共同代表、「『戦争と医の倫理』の検証を進める会」世話人。

著書・分担執筆:「Handbuch der inneren Medizin IV 4A」(1985 年 Springer-Verlag) 「胸部X線診断アトラス5」(1992 年 医学書院) 「新・画像診断のための解剖図譜」(1999 年 メジカルビュー社) 「気管支鏡所見の読み」(2001 年 丸善)など

近著:「見えない恐怖　放射線内部被曝」(2011 年 旬報社) ブックレット「放射線被曝から子どもを守るために」監修著(2011 年 旬報社) セバスチャン・プフルークバイル著　エミ・シンチンガー訳「セバスチャンおじさんから子どもたちへ―放射線からいのちを守る―」 (2013 年　発行:岐阜環境医学研究所　発売:旬報社)